

第4章

計画の 進行管理

I 進捗の把握及び報告

II 指標の設定と点検

1 評価指標(KPI)

2 注視する指標

I 進捗の把握及び報告

この計画で定めた施策の取組及び達成状況については、市町や関係機関等の協力を得て、庁内「地域共生社会推進プロジェクト・チーム」において、毎翌年度に取りまとめるとともに、広島県社会福祉審議会に報告を行い、地域福祉に関する幅広い意見を得ながら、効果的な施策展開を図ります。

II 指標の設定と点検

計画の実効性を高める観点から、「評価指標(KPI)」を設定します。

また、「基本理念及び目指す姿」に近づいているかを検証していくため、「注視する指標」を設定します。

1 評価指標(KPI)

評価指標(KPI)や、各指標の目標数値については、次のとおりです。

このほか、令和6(2024)年度から実施するモデル地域の取組を踏まえ、「福祉的な悩みを抱えた人に手を差し伸べるという意識・行動の変容」や「ためらわずに相談する意識の醸成」を図る指標を検討します。

指 標	現 状 値 [令和4(2022)年度]	目 標 値 [令和11(2029)年度]
困りごとや悩みに対して地域の方同士での助け合いができている人の割合	26.8%	50.0%
包括的な相談支援体制の構築に着手した市町数	19市町	23市町
成年後見制度における中核的機能を有し、地域連携ネットワークの構築に取り組む市町数	9市町	23市町
成年後見人の受任可能者数(親族を除く)	958人※ (令和5(2023)年度)	1,500人

※成年後見受任団体からの聞き取りによる受任可能者数

2 注視する指標

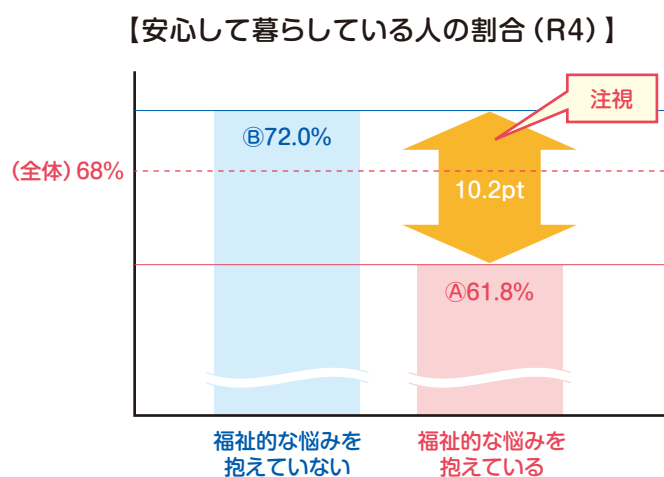
本計画では、特に、福祉的な悩み※に着目した取組を進めることにより、結果として県民全体に重層的セーフティネットによる安心感が波及することが期待されることから、計画全体の進捗を測るために、「福祉的な悩みを抱えていても、安心して暮らしている人の割合」(福祉的な悩みの有無による安心感の差)を「注視していく指標」として設定し、継続してモニタリングしていきます。

※ 福祉的な悩みとは、高齢、障害、子供・子育て、生活困窮のほか、複合的な課題や制度の狭間の問題を指します。令和4(2022)年度広島県実態調査(県民アンケート調査)では、本人や家族に福祉的な悩みを抱えている人は回答者全体の39.4%となっています。

		安心して暮らしている			
		感じている	感じていない	分からない	合計
福祉的な悩み	抱えている	Ⓐ 61.8% (848)	36.5% (501)	1.7% (24)	100% (1,373)
	抱えていない	Ⓑ 72.0% (1,520)	25.4% (536)	2.6% (54)	100% (2,110)
	[全体]	68.0% (2,368)	29.8% (1,037)	2.2% (78)	100% (3,483)

Ⓐ：福祉的な悩みを抱えている人のうち、安心して暮らしている人の割合：61.8%
 Ⓑ：福祉的な悩みを抱えていない人のうち、安心して暮らしている人の割合：72.0%
 ⇒ 毎年度、ⒶとⒷのポイント差をモニタリングしていきます。

Ⓐ	Ⓑ	ポイント差 (Ⓑ-Ⓐ)
61.8%	72.0%	10.2pt



【出典:令和4(2022)年度広島県実態調査】

